

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
1	<p>市長はお仕事すごくお忙しい中、家庭と仕事をどうやって両立してるのかとか、具体的な取組を知りたいのと、そういうお父さんお母さんが増えるには、まちとしてどうしていけばいいのか教えていただきたいです。</p>	<p>仕事も忙しいんですけど、仕事忙しいのってみんな一緒だと思うので、どんな仕事もそれなりに大変だし、それを言い訳にして家事も育児もしないっていうのはよくないだろうなと思って、基本的には私が食事は全部作っています。一時期は家事も全部やってたんです。でもあまりにも大変で、今はもうちゃんと分業体制にして、子どもたちにもみんなに役割を持ってもらってやることで何とかやっているという感じなんです。今まで妻が10割やってきたので、これからは全部10割やっていこうという思いでいるんですが、そういう思いに至ったのは、別に意識が高かったわけではなくて、妻もフルタイムで働いていたので、一時期、深夜に帰ってきて、自宅でも3時とかまでやって、朝起きたら床で倒れているみたいなことが結構あったので、本当に物理的にやばいなと思ったんで、もう全部やるから何もしないでって言って始めたところからだったんですけどね。ただ、やってみるとすごい幸せなので、大変ですけど。そういう時間もあって市政にはプラスになるだろうと思っています。</p> <p>まちとしてどうすればいいのかというのは、すごく大きなテーマで、今ひとつ取り組んでるのは、父親がもっと育児に関わるきっかけを増やしていくことが大事なんじゃないかと思ってらるんですね。さすがに我々くらいの世代から下は、女が家にいて家事すればいいみたいな人はかなり減ってると思うんですけども。今つくば市で制度を作ってるのは、一つは、つくば市の企業の皆さんに、男性の社員が育休を取得したら、しっかりと補助金を出しますよっていう制度を作ろうと思ってらるんですね。なかなか小さい企業だと、そんな余裕ないと、男性の育休なんかとんでもないって社長さんがいまだにいることも聞いていますので、そこがもし大変なのであれば、一定期間休む場合に市で独自に支援しますというようなことも含めて、まず体験をしてもらおうと。1人育休を取り始めれば、それがその社内で当たり前になっていくはずなんですね。最初の1人目ってすごい勇気いるんですけども、そういうことをまず始めていこうと思ってます。</p> <p>市役所は、もうすでに私が就任してからすぐに男性の育休取得は100%を目指そうということで、2週間以上をまず必ず取って欲しいと。取ってないければ、個別に面談したりランチしたりして、いつ休み取るかみたいな話をして、というようなことをやって、これもやっぱり結局80、90何%か、かなりの割合で取っています。そういうことを当たり前にしていくのが、社会全体が変わる方法だと思っています。だから市役所は当然率先垂範してやりますけれども、何か公務員は楽だからできるんだろうと誤解されるのはよくないんですけど、めちゃくちゃ大変なんですけど、そういう制度を作って、企業の皆さんにもそれを広めていきたいなということが、今考えてる一つのことです。</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
2	<p>1年半くらい前に、インターナショナルスクールを建てました。今日も授業の一環で生徒たち二人連れて来たんですけど、その授業の中でつくばの魅力を発見しようということやっていて、今回つくばの良いところを二人の生徒が書いて来て、ぜひ市長にも読んでいただけたらなと思っています。私も教員という立場で生徒たちにアドバイスすること、市長という立場で生徒たちにアドバイスすること、父親としてもアドバイスすることがあると思うんですけど、それをぜひ今日は二人の生徒が来てるんで、お伝え願えればと。このつくばという最先端のまちでどのように勉強していったら、どのような人物像を目指し、つくばでどのように貢献していけるような大人になっていけばいいのかというのを、ぜひお答え願えればと思います。</p>	<p>グローバル人材とか、イノベーション人材になるんだとか、だから今頑張るんだみたいなことを言いますけど、子どもが将来のために今を苦しんでいいといったことは絶対正当化されないと思っています、今この瞬間が幸せであることがすごい大事だと思うんですね。今この瞬間も幸せで、将来も幸せに生きていくってこと以上の価値はなくて、国家や大人の都合でいろんなものを管理されたりするのは違うんじゃないかなと思っています。大人が子供を、自分の自己実現の道具にするって、最悪だと思うんですよ。そこに子供の意思はないわけじゃないですか。</p> <p>だからつくば市は、教育大綱というのを作っています。ここにつくば市の教育の目標は、「一人一人が幸せな人生を送ること」、というのを最上位目標に掲げると明記したんですね。近代公教育いろんな課題があるので、その課題を解決するような教育のあり方にしようということで三つここに書きました。一つ目のその転換は、「教えから学び」という転換なんですね。主語を、先生が一方通行で教えるんじゃなくて、子どもが自分で学びたいことを学んでいくようにしようということ。二つ目が、「管理から自己決定」。親とか先生が、あれも駄目これも駄目、これはしていいって決めるんじゃなくて、子ども自身を信頼して子ども自身が自分たちで考えて、対話をしながら、時にぶつかり合いながら、子どもたちの中での社会を作っていくということ。例えば、去年やったのは、パソコンの端末の使い方を先生が勝手に決めるんじゃなくて、子どもたち自身でみんなで話し合っ決めて、というようなことをやっています。三つ目が、「認知能力の偏重から非認知能力の再認識」へということで、テストの点数とか、そういう測定可能なものばかりじゃなくて、協力する力とか、やり抜く力とか、そういうものを育むような取り組みを市としてもしていこうということです。まだ作ってから間もなく、これからどんどん進めていくものなんですけど。このようなことをつくばでは考えてるので、生徒さんたちに、僕はあまりアドバイスっていうのはしないんですけども、言えるのは、自分でいろんなことを決めていくことを決して手放さないで欲しいなあとということで、親が言うとか、先生が言うとか、社会がそうだからって言うのではなくて、もちろんアドバイスをもらいながら、自分で考えて、その自分の方向性っていうのは選んでいって欲しいなと。なぜなら、皆さんの人生は皆さん自身のものであって、誰か他の人のために人生を生きる必要は絶対ないので。もちろんその中で、自分はこんなことは将来やりたいなとか、こんなふうに社会の役に立ちたいなと思ったらそれはもうとても素晴らしいことだと思うので、その夢を目指していったらいいと思うんですけども。僕自身は、その自己決定というの、自分のことをよく知りながら、自分はどんなこと好きなんだろうな、どういうことが逆に苦手なのかなんていうことをいろいろ話をしたり、自分でも考えながら、自分自身を見つけていって、相手のこともそうやって理解していったらいいんじゃないかな</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
		<p>なっているふうになっていくのがいいなと思っていて。そういうことを全部教育大綱に書きました。ですのでよかったら、これを読んでいただけると。1人で書いたわけじゃないんですけども、僕の考えていることというのは大体入っているので、そこからアドバイスというよりは、自分で感ずることがあれば、読み取って、何らかの行動に移してもらえば嬉しいなと思っています。</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
3	<p>スーパーシティ構想関係も含めて、サイエンス関係は進んでいるのは分かっているんですけど、周辺に行くともっと困っていることがたくさんあって、それは何かというと、老人です。地域の中で取り残されてくる老人の方々が増えている、しかも空き家が増えてくる、そういう問題をどうするかについて考えています。</p> <p>情報を知らないよって話がたくさんあって、回覧板は月に2回流れても結構見てないんですよ。スーパーシティサイエンスの考え方からすれば、ボタン一つで情報が流れるものがある、スマホは使える人はいるんですけども、大体70代前後を境目に、持っているんだけど使えない、使わない、電話機能だけ、という形があります。その一例が、シルバークラブの連合会の中の活性化協議会の活性化委員会をした時に、連絡事項はスマホでやりましょねって言って、委員の方々が10人ぐらい集まってお話をしたところ、できないんですよ。連絡はメールかLINEでやろねって話をしても、まず持ってない人もいて、そうすると繋がりませんよね。</p> <p>そこに所属している方、シルバークラブに入ってる人の数が、ものすごく減って、組織化率がダウンしているということがあって、じゃあ本当に周りで住んでいる方々、特に組織化率が下がっているのが旧筑波町、そちらの方面非常に多くって、委員になる方もなかなかいない。そういうことも踏まえながら、そこをどうするかについて市としてはどう考えているんでしょうか。取り残されてくる地域の中のお話をちょっとしていただければと思います。</p>	<p>よくデジタルデバイスとか言われますけれども、情報機器の使い方で格差が生まれていって、結果として、それが受けられるサービスにも差が出てくるようなことはあってはいけない話ですので、すごく大事にしている問題です。今のスーパーサイエンスシティ構想というのは、モデル地区を4ヶ所選んでいて、駅前と大学の辺りと、もう一つは、まさに今お話があった筑波山の麓の小田というエリアですね。そして、もう一つが荃崎の高齢化率が50%を超えてるようなニュータウンの宝陽台というエリアをモデル地区に選んで、そこではやっぱりいろんなサービスをやるために、モデル地区を通してやっていくので、スマホが使えないということはないようにしなくちゃいけないということで、スマホ教室を何度もやりました。スマホの貸与もやりますと。それで何が起こるかなと思って見ていたんですが、地域にスマホを教える指導員というのを区会の中で任命してくれて、その人たちがどんどんスマホの使い方とか、或いはパソコンの使い方を教えに行ったり、相談に乗るような仕組みを地域で作ってくれたんですね。もう今は結構そういう人が増えてきて、自動で回るようになってきてるんですけども、それはモデル地区だから最初市がかなりてこ入れしましたけども、やっぱりスマホの使い方みたいなことは、もっとやっていいのかなと思ったんですよ。例えば行政がこういう場所でスマホの使い方を勉強したい人いませんか、みたいな感じで。今いろんな教室を市でもやってますけども、行政ニーズで考えると、スマホ講座をもっと行政でやっていくことが必要なんだろうなってことで、端末を無償であげますよってのはちょっとしんどい気はしますが、でも、興味持ったら、便利だねと思ったら契約していただくということになるのかなとも思いますし、そういうことを最初は行政でしっかりやって、併せてそのスマホを教える人の指導員を宝陽台のように作れば、そういう人が地域でどんどん講座を開いてくれたりするようになっていくのかなというように感じましたので、ちょっと持ち帰って、どういう制度がいいのか。スーパーサイエンスシティのモデル地区に選ばれるところだけでいいはずがないので、いろんな地区で、スマホの使い方をどう学べるかみたいなのを、例えば来年度の予算で、どう考えるかみたいなことをやっていきたいと思いました。必要性はあると思いますので、形にできるように頑張ってみます。</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
4	<p>①上郷で強盗事件がありました。それから、ここ最近放火が続いて、周りの地域の防災と防犯、特にこの間の強盗事件なんかでは、結局犯人の足取りも防犯カメラが付いていないと何も分からないわけです。逃げられてそのままというのが多い。結局防犯カメラの設置が多いのは中心部であって、逆に周りはそういうのがない。一方で年寄りの家はだいぶ増えてきている。高齢者の二人暮らし、一人暮らしが非常に増えてきて、そこそこのお金持ちというのが、周りには大きなお家があって、そういう情報が、強盗をやる連中に流れちゃっているということを聞いたんですね。そうすると、年寄り二人では危なくて住めないねと、じゃあ子供たちのいるところに二人で引き上げましょうと、結局空き家になっていくということがあるわけですね。</p> <p>空き家対策の一つとして我々のプロジェクトがあるんですけども、空き家を何とかするんじゃなくて、空き家にならないようになんとかできないかということで、今年から方針変えたんです。住んでいる人たちが困らないようにする、住んでいる人が周りがあるから安心だねと、草刈りなんかもみんなで手伝いましょうと、そういうことで人間関係を作りながら、話しながら防犯にも努めていくということが続けていけば、そこで信頼関係ができれば、もし空き家になるにしても、声をかけてもらって、我々がいわゆる学生さんが今シェアハウス欲しいとかっていう話をずっと聞いているもんですから、そういうところに提供できていけるんじゃないかと。今そういうことで進めているんですけども、市の空き家対策はあくまでも空き家になったものを、どう有効活用していくかということなんですけど、我々のこの考えに対して、いかがでしょうか。</p> <p>②今市長が言ったような話を、何が欲しいっていうか、とにかく全部が揃ってあればいい話で、何も大きいところ行かなくても、地域にすべてが揃ってあれば、自転車で行ければいいので、そういうところが欲しいんだよっていう話をその時したんです。</p>	<p>①最高じゃないですか。ぜひやってくださいとしか言えないんですけど。実は、皆さんに今度ちょっとお時間いただきたいと思っていて、空き家にならないために何をやる必要があるかっていうことって、都市計画の中で、エリアを長期的にどうしていきたいかということとイコールなんですよね。人口減少を受け入れて、いつか無くなっていく集落ですよっていう道を選ぶのか、それとも都市計画上、ちゃんと街としての拠点を残していくのかということ、実は都市計画マスタープランというのを改定をしているところなんですけれども、これを頻度多く打ち合わせを、僕も直接入ってみんなで地図を広げながら、いろんな交通部門や経済部門が入ったりしながらやって、今までもその都市計画マスタープラン、何となくちょっとずつやってたんですが、もうこのままじゃ駄目だっていう話をして、徹底的に今やってるんです。その中で話をしてるのは、結局多分すべての集落をこの人口減少時代に、30年後も維持しようというのは、正直不可能なんです。だけど、これだけ広いつくば市ですから、ちゃんと都市機能として維持すべきところをどこにするかというのを考えて、そこに対して今後どういう施策を打ったり、どういう投資をしていく必要があるんだろうねということを考えて。実はその概念って、コンプライートネイバーフットっていう概念があって、要は、あらゆる機能を満たしている近隣地区みたいな、ご近所。病院、学校、保育所、高齢者施設、ショッピングなどがそろっている、その完全なご近所を、どういうふうに作っていくかということを考えているところなんです。それを何ヶ所ぐらい、つくば市の今の状況と今後の人口推計も見ながら含めて作っていけるかというのを考えて、例えば20分、15分とかでもいいですけど、徒歩15分圏でこういうのが揃って、自転車で15分でこういうものまで揃うというようなエリアを、実際今地図を見ながら、こういうことできるかなと。ただそれを勝手に行政で決めてもしょうがないので、地域の人の話を聞かないと分からないんじゃないかなと話をしながら、都市計画の職員がひよっとしたら皆さんに…(発言者:来ました。)あ、もう行ったんだねやっぱり。そういうことなんですよ。</p> <p>②そうですね。まさにそういうことが、地域と対話をしながら、ともに作り、そして地域を持続可能にしていくことだと思ってるので、ぜひどんどん意見を出していただいて、お互いに何ができるかっていうのを考えていくと。そこにじゃあ1,000億の投資できますかって言われたらそれはできないんですけど、小規模でも効果的な投資があればそういうものやしていきたいと思えますし。こちらからもいろんな提案をしたいと思えます。そういう中で結果として、別にここ出なくて住み続けられるねって思えるようなまちにしていきたいと思っていますので。</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
5	<p>ギフテッド教育で、国では特定分野に特異な才能を有する児童生徒への支援とか小難しい言い方をされていて、市長も才能教育みたいなものとか、そういうのに偏るものじゃなくて、市としてもいろいろとビジョンを持たれているというお話は、本当にそだよなと思っています。家庭教育としてできることも、つくばは恵まれているので、子どもの生き生きとする様子は家族では見てはいるんですけど、公教育になった時に、非常に難しい困り感が出てくるなっていうのは思っています。つくばは本当に教育に関わるリソースがすごく多くて、ちびっ子博士とかもすごい楽しませてもらってはいるんですけども、つくばだからできることってたくさんあって、ベーシックにそういうところにかなうような教育みたいなものとか、できることって恐らくあるので、ぜひつくばでできることをやっていっていただきたいと思います。困り感って、例えば奇異な行動をしてしまう時に、近所の方とかからあの子危ないんじゃないかとか思われちゃうこととかが1番やっぱり困っていて、子どもが学校とか社会に出るのを恐れていくとかいうふうにはならないように親としてはサポートするんですけども、教職員の先生が例えば間違っただけをしちゃうとか、そういうこともないように、市民の方にもそういう子もいたりすることを広めていけるようにしていただけると、難しいと思うんですけど、そういうことを思ったりしてます。</p>	<p>すごく大きなテーマで、国がようやくそのギフテッドの支援をどうしていくかという(検討を始めて)、ギフテッドというのは、知的レベルが一定の範囲を超えて高い子どもたちのことですね。知能指数で言ってしまうと、100というのが平均で下に行くと、境界知能と言われたり、或いはそれよりも下にいってくると知的障害というのがあったりして、賢い子だと本当に120とかになっていたりするんですけど、たまに150とかいうことが起きるわけです。そういう子って、賢すぎて苦勞するわけですよ。頭の回転が早過ぎたり、先生の言ってること全部分かっちゃったり、何でこんな当たり前のことをやってるんだろうって苦痛でしかなくて、結果として、レベルが高過ぎて、学校側で対処できない子ども、それが実際問題として不登校に繋がっていたりもしているんですね。そういう子は、フリースクールに行っても自分で勉強したりとか、それでいいのかっていうと決して良くなくて、やっぱりその子に合った学びができるようにするっていうのを、公教育は放棄をしてはいけないと思ってるんですよ。ですので、今の特別支援教育の推進室でもいろいろ始めてはいるところで、まだまだ知見も足りていないですし、先生たちがしっかりと学ぶだけの土壌もできていない。軽井沢でインターナショナルスクールやってる小林りんさんという人は、ギフテッドの子どもたちが本気で自由研究をやる夏休みにしようみたいな、研究者とかそういう人たちに直接質問したりしてっていう「エデュケーションビヨンド」っていう団体を立ち上げて、残念ながらまだ英語版しかないんですけど、日本の子供たちがそこで集まってやったりして、もう日本語でもできるんだっただけかな？そんな取り組みをしてそこで今知見を溜めてもらっているところで、僕も随時情報をもらっているんで、何か公教育でどういうことができるかなっていうことを考えていながら、子供たちが自分の知的好奇心や知的水準に合う内容の学びをやっぱりしていくことができれば、それはすごい価値があるんだと思ってるので、実は会う度に小林りんさんに、今どんな感じなんて話は情報交換してますので、それをできるだけ持ち帰ってみたいと思ってますし、つくばでもSTEAM教育を力を入れていて、直接研究者に質問できるようなプラットフォームを用意していて、これはまあまあ上手くはまれば使える部分もあるんじゃないかなと思っていて、研究者がアドバイスもくれたりするんで、そういうようなことがギフテッドの子供たちにどう関わりを持てるかみたいなことも、ちょっと考えていかなきゃいけないと思ってます。まだまだ市としてできてることってほとんどないというのが本音ですので、個別の支援級での対応であったり、通級との関係になっちゃっているのは課題感として持っていますので、もう少し踏み込んでできることを探していきたいなと思ってる場所です。</p>

タウンミーティング(2023.6.17開催 場所:老人福祉センターとよさと) 懇談概要

	参加者からの御意見・御質問の概要	市長等による回答の概要 (※特記のないものは、市長による発言内容です)
6	<p>私、一見すると、健常者に見えるんですが、左側麻痺してるんです。そういう障害者も世の中にはいまして、これですごく嫌な思いをいっぱいしてきました。世の中まだまだ、社会的弱者、マイノリティの存在なんて、そういうところに対しての認知というか考え方がまだまだなところがあると思うんですね。そういうところを少しでもちょっと自分なりに変えていきたいと思って、この3月に会社をつくりました。今頑張っているんですけど、やっぱり障害を持ってしまおうとなかなか表に出ようと思う人が多くない。でも、障害を持ったとしても、前を向いて歩いて行けるんだ、そういうところを、僕は障害を持った人に発信したくて、それで立ち上がりました。</p> <p>今日いろいろ聞いている中で、障害福祉のことが少し聞けなかったので、障害福祉のところはどういうお考えをもっているかっていうのをぜひ聞きたいなと思いました。</p>	<p>私自身、今から10年ちょっと前に障害のあるスタッフが働く農場というのを立ち上げたんですね、ごきげんファームという農場なんですけれども。それは、市議会議員時代から、いろいろな障害のあるお子さんがいる親御さんたちから話を聞いていて、例えば支援学校までは行っても、その先、社会の中で行き場所がないことがすごい困っていたり、本当は仕事できるのに、なかなか偏見で就職できないとか、或いはやっぱり感情のコントロールがうまくいなくて、トラブルを起こしてクビになってしまうとか、本当にたくさん御相談を受けていて。何とかするしかないなと思って、当時、農産物の輸出を仕掛けていたので、農家さんの話を聞いたら、農家はもう人手がない、もう本当に困っていると、でも働きたい人たくさんいるよなと、じゃあ障害のある人が農業をやったらいいんだと思って、まあ本当に思いだけで立ち上げたんですけど。市長になったので今は代表から離れてますが、今150人ぐらいの障害のあるスタッフが、それは知的も精神も身体もみんなが活動をしていて、そこで働き始めて、今はもう社員やってる人もいたり、しばらく前に全国に野菜ボックスという形で、一万ボックスぐらい出したので、多分単体の農業系の法人としては全国一じゃないかみたいなこと言ってる人もいました。農家から集めてじゃなくて自分たちで作ってるものを出しています。</p> <p>障害福祉分野っていうのは私にとって、ある意味ライフワークじゃないですけど、いろんな話をしながら、どうすれば障害があってもなくても、地域で幸せに生きていけるかっていうのはものすごく自分の中で大きなテーマですし、そのためにいろいろな施策を打っていて、例えばつい2週間ほど前も視覚障害のある人が、乗り換えがなかなかスムーズにできないという課題を解決するための実験として、バスから降りてつくばエクスプレスに乗るまでをスマホでガイドするようなシステムをちょっと実験をしてみたりとかですね。或いはそのバリアフリーの補助金、これも日本の自治体でかなり早いうちに作って、お店とかが段差を解消したりする補助金を作ったりとか、かなりいろいろ障害福祉関係もやっているということはあります。ですので、むしろどんな会社を作られたのかなって、その会社でどんなことをやろうとしているのかっていうのをお聞きできれば、何かそれに対して、じゃあどんな場面がご一緒できるかなんていうのご提案できるかと。</p> <p>例えば協議会とかもありますので、よろしかったらそういう場所に入っているだけでいいと思いますので、ご案内も後で連絡先こちらにいただければ、情報共有の段階として、これから事業やられるのであれば、できると思いますので。そういう志を応援したいと思っていますし、本当にみんなそれぞれの形で、働きたいと思う人が働けるっていうのがすごく大事だと思っているので、よろしくお願ひします。</p>